



令和8年度 校内組織体制

本校在籍職員は82名、現任職員77名で令和8年度 of 教育活動をスタートしました。チーム担任制の導入や学校行事の開催時期の見直しなど、大きな改革の年となりますが、チーム学校・チーム学年として、児童一人一人が安心できる学校づくりに努めて参ります。

「令和の日本型学校教育」が掲げる「個別最適な学びと協働的な学び」への転換に向けて

令和になって8年目、今更ながらこの話題について述べるのは、今年度から実施しているチーム担任制と深く関係しているからです。

チーム担任制をとおして目指しているのは、「主体的に学ぶ・動く・挑戦する児童」の姿です。学級担任が定期的に変わることで予想されることは、教師によって対応の仕方や物事の進め方が違うといった声です。確かに、このような事態が起こり得ることは容易に想像できます。しかし、見方を変え、この声というのは、学級で進める物事を担任に任せていること、指示待ちであるという受け身の状態とも言えるのではないのでしょうか。

例えば担任が変わっても、自分たちの学級のやり方は「こうだ！ こんな風にしていきたい」と動いていけたら、頼もしく感じてしまいます。そうした主体性を育てていくのは、日々の仕組みされた学びの積み重ねであると考えています。

児童の主体性を育てていくためには、教室を「教える場」と「共に考え、学ぶ場」のバランスの取れた場所にする必要があります。そのために、教師は、子どもたちが思考・判断するための根拠となる基礎学力の習熟を考えた学びの場を創造しなければなりません。また、子どもたち一人ひとりの小さなつぶやきを拾い上げる力を磨き上げなければなりません。基礎学力の習熟や「わからない」と誰かが言ったとき、児童の思考の糸を丁寧に紡ぎ、つなぎ合わせる学びをデザインしていくことが、今の教師に求められている授業であると考えています。こうした授業を展開しながら、児童の声を出発点に、協働・共創しながら課題を解決・改善していく主体性を育む教育活動の充実を目指していきます。

基礎基本の習熟や協働・共創的な学びを進めることと、児童個々が自分自身の課題を把握

する力を身に付けて、自分に合った学びを考えたり、選択出来たりしながら、将来への展望を見出してほしいと思っています。

自分の命は自分で守る！

いよいよゴールデンウィークが始まります。楽しい計画もあるかと思います。しかし、毎年聞かれるのは、連休中に起こる水難事故や交通事故のニュースです。本校でも、白川に子どもたちだけで遊びに行った事例もあれば、ヘルメットを被らずに自転車に乗っている児童も少なくありません。また、横断歩道のない道路に飛び出すといったことも起こっています。

学校では、水の危険性や交通ルールを守る事の大切さを考える学習を継続的に行っています。しかし、徹底できている訳ではありません。子どもたちの中に「自分だけは大丈夫」という意識があるのかもしれませんが、「自分にも起こり得る」という意識を高めるためには、ご家庭での声掛けが必要不可欠です。事故なく、楽しい話題を持って登校できることを願っています。

よろしくお願いします。

チーム担任制について期待すること！

さて、今年度からチーム担任制を導入していますが、ねらっている効果の1つに学力向上があります。学力向上であれば、教科担任制でも十分ではないのかという声もあるかと思いますが、そうではありません。学力と言っても、単に国語や算数の点数を上げる事だけを目指すではありません。自分の思いを表現したり、友達の思いをくみ取ったり、人と豊かに関わる力を付けることが根本にあります。そのために必要な学力の基本は、学級が学びに向かう集団として機能している部分にかかっています。自己肯定感の醸成、他者理解の促進、協働的な集団であることなど、支持的風土のある学級づくりが重要です。そうした学級集団へと高めるためには、ベテラン教員の経験値、中堅教員の挑戦力、若手教員の大胆さなどが融合することで、相乗効果が期待できるとかんがえました。このことが、チーム担任制を導入した1つの理由でもあります。チーム担任制を導入してみても効果や課題について、継続してお伝えしていきたいと思っています。